



三重県立看護大学
MIE PREFECTURAL COLLEGE OF NURSING



MCN REPORT

2025.3 vol. **62**



看護職を知り、進路を考える

contents

高大接続事業の取り組み	1
学生の課外活動	3
研究室訪問	4
連携協力協定機関紹介	5
大学の出来事	6

高大接続事業の取り組み

看護職を理解し、ミスマッチのない進路選択を

企画情報担当理事 **大平 肇子**

医療系の学部を志望することは、職業選択に直結する点で、他学部への進学とは異なります。看護学部をめざすことは、将来、看護職として働くことを含んでおり、職業選択まで視野に入れた進路決定は、高校生にとっては簡単ではありません。本学では高大接続事業として、看護職への理解を深め、自分自身の適性を見極めることをめざした高校生のためのキャリア教育を実施し、高校生、保護者、高校教員等から好評を得ています。今後も本学の高大接続事業が、高校生にとって看護職の理解を深め、看護職として活躍する意志をもったうえで看護の道を選択する一助となれば幸いです。



高校生のための看護職キャリアデザイン講座

①「出前授業」

そもそも、看護職ってどんな仕事？

「身近に看護職者がいる」「家族が病院で世話になった」など、看護職に興味を持つきっかけはさまざまですが、進路として考えるためには、まず看護職について知ることが重要です。

本学では、毎年6～7月頃に本学教員が高等学校に出向き、看護職についての基本的な知識を講義する「出前授業」を実施しています。看護職の仕事内容や働き方、活躍するフィールドなどについて、良い面だけでなく厳しさも含めてお話しし、看護職への理解を深めたうえで、進路を選択してもらうことをねらいとしています。

令和6年度は三重県内22校509名の参加があり、看護職について具体的なイメージを持つことができたという声を多くいただいています。



高校生のための看護職キャリアデザイン講座

②「一日みかんだい生」

自分は看護職に向いているの？

進路のミスマッチを防ぐためには、自身に看護職者としての適性があるのか考えることも大切です。そこで実施しているのが、高校生を対象に8月に開催する「一日みかんだい生」です。

まず、本学の4年生から学生生活の体験談をお話しし、進学後の具体的なイメージを持ってもらいます。そして、現役の看護師、保健師、助産師の方から、仕事内容や、やりがい・大変さなど仕事に向き合う思いについてお話しいただきます。

これらを聞いたうえで、参加者はキャリアデザインワークショップに臨みます。本学の4年生も交えて行うグループワークで、「どんな看護職者が理想的か」「それは患者にとってどのような意味があるのか」などについて話し合うことを通じて、看護職者に求められる資質や、自身の適性について考える機会を提供します。

令和6年度は、2日間で103名の高校生が参加しました。受講後は、看護職の道に進みたいという気持ちが強くなったという参加者が多くいる一方、自分には向いていないかもしれないので進路を考え直したいという参加者もいます。そのどちらもが、この事業の成果だと考えています。



キャリアデザインワークショップの様子



③「高校生のためのオープンクラス」

なぜ大学に進学するの？

看護職をめざすための進学先は、大学や短期大学、専門学校など1つではありません。自分はどこで学びたいのか、その問いの参考となるよう実施しているのが「高校生のためのオープンクラス」です。大学の普通の授業を高校生に開放し、大学生と一緒に講義を受けてもらいます。オープンキャンパスの模擬授業など高校生向けに作り直された内容ではなく、大学の本物の講義を体験することができます。

令和6年度は12月24日～26日の3日間で実施し、19名の参加がありました。高校とは異なる授業の内容や進め方に触れ、多くの参加者が、大学での主体的な学びに興味を持ってくれたようでした。



大学、そしてその先へ！

④「三重の保健医療を支える未来の看護職者育成交流会」

三重県に貢献する看護職者になりたい！



特別選抜で合格した入学予定者40名とその保護者を対象として、12月に「三重の保健医療を支える未来の看護職者育成交流会」を開催しています。県立大学である本学は、三重県に貢献する看護職者を養成することも重要な使命の1つと考えています。また、本学の特別選抜を受験するのは、将来、三重県の保健医療に貢献したいという情熱がある高校生たちです。

交流会では、在学生からの体験談で入学後のイメージを伝えるとともに、三重県医療政策総括監からの三重県の医療の魅力や県の取り組みについての話、県内の医療機関・行政機関の方との個別相談を通して、将来、三重県で働く魅力を感じてもらえるプログラムを実施しています。参加者からは、「三重県の医療について詳しく知ることができた」、「将来、地域に貢献したいという気持ちが強くなった」という声をいただいています。

⑤「入学準備教育」

4月から大学で学ぶために

本学では、特別選抜で合格した入学予定者を対象に入学準備教育を提供しています。看護学を学ぶ基盤となる「生物」「化学」の2科目について、テキストによる自己学習と大学で授業を受けるスクーリングを実施します。入学後のスムーズな学習をサポートするとともに、早くに合格を決める特別選抜合格者の学習習慣の継続を目的としています。



学生の課外活動

学生生活、たくさん体験しよう！

本学の学生は、サークルやボランティアなど、さまざまな課外活動に参加しています。今回は、その中から2つの活動をご紹介します。

サークル紹介 Campus Cube チームみかんだい

3年生 濱野 寧音 さんにインタビュー！

Q. どんなサークル？

FM三重のラジオ番組「Campus CUBE」に参加しているサークルです。「Campus CUBE」は「県内の大学と地域を結ぶ30分」と題し、パーソナリティの高橋和代さんや県内の他大学の学生と一緒に、毎週決まったテーマについて楽しくトークする番組です。



Q. サークルの魅力は？

簡単には体験できないラジオ番組への出演ができることだと思います。番組は実際にFM三重のスタジオで参加しており、高橋さんやディレクターの方から会話技術などのアドバイスをいただけます。学年や大学の垣根を越えて、多数の学生と交流を持ち、楽しくわきあいあいと放送に臨んでいます。ぜひFM三重で「Campus CUBE」を聞いてみてください！

放送時間

毎週金曜日 20:30～20:55

レディオキューブFM三重（78.9MHz）で放送中。インターネット配信サービス「radiko」では、過去7日以内の放送分をタイムフリー配信でいつでも聴くことができます。

みかん大 暮らしの保健室

2月20日（木）、「令和6年度 みえまちキャンパス in みかん大」を開催しました。「みえまちキャンパス」は高等教育コンソーシアムみえの取り組みで、構成機関の学生が実施している地域活動を支援することを目的とし、学生が自身の取り組みをプレゼンテーションやパネル展示により発表します。本学からは、2名の学生が発表団体「みかん大暮らしの保健室」として参加し、プレゼンテーション部門で最優秀賞を受賞しました。



みかん大暮らしの保健室

4年生 中西 麻結子 さん 山口 凜 さんにインタビュー！

Q. どんな活動をしている？

地域の方々の健康を支援することを目的とし、月に1回、貧血や血圧のチェックやフットケア、アロマハンドマッサージを行っています。地域のサロンのようにくつろぐこともでき、茶話会などを開いて地域住民との交流を深めています。

Q. みえまちキャンパスに参加した感想は？

健康という側面から地域について考えることが多かったのですが、今回、他大学の発表を聞いてさまざまな側面から地域を知ることができ、考えることができたので良い機会でした。

Q 暮らしの保健室に参加して

2年半参加しましたが、月に1回と限られた時間の中で地域の方と接するので、1回1回を大切に丁寧にかかわることが大切だと感じました。また、住民の方が地域で生活し続けられるように、この暮らしの保健室という場が単に測定だけでなく、住民の方の健康を支える場として機能し続けられるように後輩たちに繋いでいきたいです。



哲学 安部 彰 教授

? 哲学とは

まず哲学という学問が存在することを知らないという大人はほばいないように、哲学はとてもポピュラーな学問です。しかし、いざ「じゃあ哲学ってどんな学問なの?」という話になると、誤解されている方も少なくないような印象があります。というのも、社会的に成功した人達がよく「私の人生哲学」を自著等において語ったりしていますが、わりと多くの人が「ああいう感じなのが哲学」と思っている節があるからです。しかし「ああいう感じ」の語りの内実は、その人の生き方や主義主張（ポリシー）について開陳したものです。もちろん、それはそれでためになったりもしますが、でも学問的な意味での哲学とは似て非なるものです。では、あらためて哲学とはどのような学問なのでしょう。実はこの問いは哲学における難問中の難問のひとつで、管見のかぎり正解はまだありません。だから私見を交えてお答えせざるをえないのですが、私は「答えよりも問いを重視する学問」である点に哲学の最大の特徴があると考えています。まずこれもよくある哲学のイメージですが、どうやら「哲学といえば新奇な答えを導く学問」と多くの人が思っているようです。だけど、これは必ずしも間違っていないかもしれませんが、いわば結果論に過ぎず、少なくとも哲学の目的はそこにはありません。むしろ哲学の真骨頂は、これまで当然視されてきた、あるいは大前提となっていた事柄を疑い、あらたな問いを立てる点にあります。言うなれば多くの学問がいわゆる問題解決型であるのに対し、哲学は問題発見型です。だからこそ、その答えもときに新奇で常識破壊的なものになります。また「常識の吟味」という哲学のこの特徴こそが、「哲学って難しそう、奥が深そう」という、これまたよくある世間のイメージをつくりあげています。というのも常識の吟味は、みなさんにも試しにやっていただくとおわかりいただけるはずですが、問いに答えることよりもかなり難しいからです。でも近年では、学生たちを見ていても思うことがあります。難しいことはどうも敬遠されがちです。だけど、難しいからこそ哲学は面白いのです。実際私もそうですが、哲学をやっていると、世界の見え方や人生観が変わったりします。なので、日々やこの世界をなんだかつまらないなと

感じている人や、人生を達観した気になっている人にこそ、ぜひ哲学を学んでほしいと思います。

? 研究について

私の専門は、哲学のなかでも、とくに倫理学（道徳哲学）です。なかでも目下、私が主に取り組んでいるのは医療・看護の倫理学です。具体的には身体拘束の倫理学研究などですが、その成果が公になるのはまだ先になりそうです。一方で、最近の仕事としては、ヤングケアラー論を上梓しました（写真）。ただしこれは、いわゆる哲学への誘いの一般向けの本なので、内容的にはあまり哲学っぽくありません。でも本学に来てからの経験も踏まえながら私なりにケアについて考えたので、ご関心があればお手にとっていただけると嬉しいです。



連携協力協定機関紹介

三重県立こころの医療センター

「Better Mental Health Care」

よりよい精神科医療をめざして

当院は三重県津市にある318床の精神科病院で、地域住民のこころの健康を支援しています。看護部は「全ての人に優しく信頼されるこころの看護を提供します」を理念に、患者様の尊厳や権利を守りつつ、高い実践力を持つ精神科看護の提供に取り組んでいます。そのため、看護職としての継続的な学習と能力向上が欠かせないと考え、教育の充実を図っています。



三重県立看護大学との連携では、精神看護学の臨地実習を受け入れています。学生が精神障がい者に関わることで、スティグマの軽減や精神看護の理解を深める指導を行っています。実習を通じて当院へ就職した方には、新卒向けの新人教育プログラムを提供し、精神看護の学びをサポートしています。なにより、精神障がい者と直接関わることで精神科看護の理解を深める最良の学びの機会となりますので、ぜひ見学などのお問い合わせをお待ちしています。

(看護部長 吉田 博樹)



病院情報

三重県立こころの医療センター

(昭和25年3月25日 高茶屋病院として開設 (平成11年11月名称変更))

- 病床数：318床
- 診療科目：4科 精神科、内科、歯科、脳神経内科
(内科・歯科は外来診療は行なっていません)
- 職員数：職員数 211人 (うち看護師 146人) 令和7年1月1日現在

連携協力協定機関一覧

県内14病院・2市 (令和7年1月1日時点)

● 三重県厚生農業協同組合連合会
鈴鹿中央総合病院

● 社会医療法人畿内会 岡波総合病院

● 伊賀市立上野総合市民病院

● 名張市

● 三重県立こころの医療センター

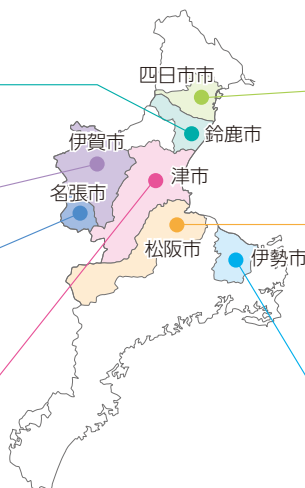
● 独立行政法人国立病院機構三重病院

● 三重県立一志病院

● 津市

● 藤田医科大学七栗記念病院

● 独立行政法人国立病院機構
三重中央医療センター



● 地方独立行政法人
三重県立総合医療センター

● 松阪市民病院

● 社会福祉法人恩賜財団
済生会松阪総合病院

● 三重県厚生農業協同組合連合会
松阪中央総合病院

● 日本赤十字社 伊勢赤十字病院

● 市立伊勢総合病院

卒業研究発表会・修士論文発表会

卒業研究発表会

12月23日（月）、令和6年度卒業研究発表会を開催しました。卒業研究は、本学4年生が、自身に関心を持つテーマに沿って、研究計画を立案し論文執筆を行います。発表会では、他の4年生や教員、これから希望の研究分野を決める3年生も参加し、熱心に耳を傾けていました。



後期修士論文発表会

1月22日（水）、令和6年度後期修士論文発表会を開催しました。研究発表は、学位授与のための審査過程の一部になります。今回は、修士論文コースの6名が、それぞれの教育研究領域において取り組んだ研究の成果を発表し、質疑応答に臨みました。

第3回公開講座

1月11日（土）、元レスリング女子日本代表・リオデジャネイロオリンピック女子レスリング金メダリストの登坂絵莉氏を講師にお招きし、「夢をつかむ」をテーマにご講演いただきました。講演では、金メダルを獲得するまでの努力や思考の積み上げなど、講師自身の経験に基づく人生の教訓をお話いただきました。

130名の県民の皆さまのご参加があり、「とても興味深く、これからの自分を奮い立たせる機会となった」、「目標をもって『真面目が一番』を胸に、気持ち新たにがんばっていきたい」等の感想をいただきました。多くの皆さまにご参加いただき、ありがとうございました。



総合課題探求Ⅰ

1月24日（金）、1年生が履修する「総合課題探求Ⅰ」で成果発表会が行われました。

この授業は、「看護専門職として倫理的な視点から現象を捉え、行動できる基礎的能力を養う」ことを科目目的に掲げています。

学生はグループにわかれ、「出生前診断」や「安楽死」などの検討事例から倫理的課題を特定し、その倫理的課題への対応について探究したことをポスターにまとめます。

発表会第1部では各グループがポスター発表を行い、第2部ではポスターをもとに探究内容について口頭発表と質疑応答を行いました。



認定看護師教育課程（B課程）「感染管理」令和6年度修了式

2月12日（水）、認定看護師教育課程（B課程）「感染管理」の第3期生18名の修了式を挙行了しました。本教育課程は令和4年度に本学（地域交流センター）と特定行為研修指定医療機関（三重大学医学部附属病院）とが共同して開講し、令和6年度をもって閉講します。

3年間で、修了生54名を送り出しました。今後も、修了生が感染管理認定看護師として高い能力を発揮し活躍することができるよう支援を続けていきます。



さらなる発展と人材育成の充実に向けて ～学生支援のための基金への寄付のお願い～

皆さまからあたたかいご寄付を頂戴しましたこと、心より感謝いたします。今後も継続的な学生支援を可能とするため、ご寄付に関し格別のご支援を賜りますよう厚くお願い申し上げます。

○寄付金受付状況 (R6.4.1 ～ 12.31 時点)

・「寄付申出書」…8 件、600,000 円

ご寄付をいただいた翌年の確定申告期間に所轄税務署へ申告いただくことで、個人・法人それぞれにおいて、税制上の優遇を受けることができます。

○「三重県ふるさと応援寄附金（ふるさと納税）」

寄付額のうち2千円を超える部分が、ワンストップ特例制度利用により、確定申告の手続きを要さず、税制上の優遇を受けることができます。これにより、実質2千円の負担額で三重県立看護大学生をご支援いただけます。

～三重県ふるさと応援寄附金～

ふるさと納税制度によるご寄付は、下記二次元コードからお申込み願います。



広告

人として成長できる

見学は随時受け付けています
お気軽にご連絡ください

総合心療センター ひなが

〒510-8575 三重県四日市市日永 5039 番地 TEL 059-345-2356 FAX 059-346-4643 E-mail: kangobu@hinaga.or.jp

看護部サイトはこちら

地域と繋がり安心を届けたい

“なりたい看護師”を応援します

看護師募集中
空き定員 各種手当支給

名張市立病院

〒518-0481 名張市百合が丘西1番町178番地
TEL : 0595-61-1100 (代表)
HP : <https://nabari-city-hospital.jp/>

- 地域医療支援病院
- 災害拠点病院
- がん診療連携病院

本学マスコットキャラクター
「みかんちゃん」

三重県立看護大学の略「三看大（みかんたい）」の「みかん」に学生たちが持つ「優しさ」をイメージした大学キャラクターです。平成21年の法人化を機に学内からの公募で選ばれ活躍しています。

公立大学法人

三重県立看護大学

〒514-0116 三重県津市夢が丘1丁目1番地1
TEL 059-233-5600(代)
FAX 059-233-5666
<https://www.mcn.ac.jp/>



本学は、「大学基準協会」の定める大学基準及び「日本看護学教育評価機構」の看護学教育評価において「適合」の認定を受け、大学及び看護学教育の質について保証されています。